

9月10日、11日に札幌で開かれた「世界津波の日」2019 高校生サミット in 北海道に、横須賀総合高校が参加し、その一員として、初声中学校出身の山崎涼介さんが参加しました。



この大会には、世界44か国の高校生が集い、日本からは50校ほどの高校が参加しました。



1日目は、各分科会で、プレゼンやディスカッションが行われ、共同宣言も読み上げられました。横須賀総合高校は、Iグループで、「津波における避難の啓発」をテーマにしたそうで、他国にも負けない内容だったという自負があるそうです。プレゼンの資料は、

山崎さんが作りました。



2日目は、記念の植樹や石碑の除幕式等があり、山崎さんは、除幕式に参加したそうです。

会議は、英語で進められました。山崎さんは、英語にはある程度の自信があったのですが、リスニングには苦労したようです。今回の会議で、分かったのは「外国人に比べて、日本人がシャイだということ」だそうで、外の世界と触れ合うことによって学んだことも多かったと思います。



横須賀総合高校は、昨年度からSDGs(右の写真参照)について積極的に取り組んでいて、文化祭でも、大きな横断幕が掲げられていました。

周囲を海で囲まれた三浦市の各中学校では、津波についての防災を意識して、津波発生装置の利用や、防災倉庫や非常用貯水槽の見学、マップを使った危険個所のチェックなどの学習を行っています。



9月25日(水) 関東学院大学において、三浦市教育委員会の長沼指導主事が、法学部の学生80名対象に、「三浦らしい教育」というタイトルで、三浦の海洋教育についての講義を行いました。「地域創生特論」という講座の1コマとして行われたもので、今年で3年目の取組です。

講義の導入は、五円玉のデザイン(農業と水産業と工業を表している)についてでした。続いて、「学生たちに、「組織的・計画的な海洋教育の推進のためには、どのようなことが考えられますか」という課題を与えました。

その後、三浦市の海洋教育の実際について、動画を交えながら紹介しました。そして、新しい方向性として、「資質・能力の育成を考える」という観点について説明していきました。



最後に、模擬授業(5年生社会科)として、魚や貝の漁業生産量のグラフから、生産量が減少してきている理由について、学生たちが、それぞれの意見をまとめて、講義を終了しました。

(文責 事務局長 渋谷)

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所854-9443まで